信仰心とは…

平成二十七年六月二十二日（月）
五泉市　永谷寺副住　吉原東玄

相談者　女性　19歳

○回答者　評論家・岡田斗司夫　なんでも話せる人をつくる

日本人の大半は特定の宗教を信じていません。年末にはクリスマス、年始の初詣。家族が死んだらお坊さんを呼んで葬式をあげて、結婚式は教会。こんな無節操な私たちとは違い、世界の大多数の人たちは宗教を、つまり神様を信じています。

神様のせいで人類は悲惨な戦争を何度も経験しました。いまもなお、宗教の対立で中東では紛争が絶えませんし、インドでは身分差別が当たり前です。

しかし、神様を信じることにはメリットもあります。「道徳的になれる」というメリットです。

神を信じてる人たちなら、あなたのような悩み方はしません。聖書や戒律に反することなら、問答無用でダメ。

行いをただす、つまりこれまでのウソをバイト先の上司に告白して、辞めていった元同僚にも謝らないとアウト。神はゆるしてくれません。

たとえ自分に不利な行動であっても「正しいかどうか」で選択できる。そういう人たちが集まることによって「安全な社会」が低コストで維持できる。これが宗教のメリットです。

もちろん、宗教抜きでも「正しい行動」「安全な社会」は可能です。でもそれには自分を信じる、つまり「なにが正しいか常に考える」「間違ったことはしない」という強い意志が必要です。

しかし現実的には「神様による正しさの保証」がないから、市民たちは結局話し合いで「これでいいのか？」といつも検証せざるを得ません。神も自分自身も信じ切れない私たちは、だから罪悪感に苦しんだとき「周囲」に聞いてしまうんです。

「私、これでいいのかな？」って。

あなたは自分の行動に疑問を持ってしまった。つまり自分の判断を信じ切れない。

宗教のある社会なら、あなたの悩みにはこう答えてくれるでしょう。

「勇気をもって、信じるように行動しなさい。どんな結果になっても神はあなたを愛している」

宗教を持たない私たちの回答はこうなります。

「けっきょく決めるのはあなただよ。だからどうするかは任せる。どんな結果になっても、私たちは友達（家族）だから大丈夫」

神も自分自身も信じられないなら、なんでも話せる人をつくりましょう。あなたがいましんどいのは「秘密を打ち明けて、相談できる相手がいない」からなんです。

平成二十七年六月十三日付　朝日新聞コラム「悩みのるつぼ」より

１９歳の女性です

バイト先で、私は大きなミスをしました。でも店長に報告するタイミングを逃し、何もしないまま１日が過ぎました。

次の日バイト先に行くと、その失敗をしたのは私と同い年のバイトの子という話になっていました。彼は、一番怪しかったために周りから疑われ、彼自身も店長に問いただされたときに、はっきり否定しなかったそうです。結局そのミスをしたのは彼だと周囲は思い込み、しばらくして問題も解決されたので、事態は収まりました。

彼の名が挙がったとき、私は胸をなでおろしました。これで自分が失敗したのを隠し通すことができる、と。そしてミスしたことや店長に黙っていたことへの罪悪感も薄らぎ、その失敗について忘れることができました。私が今まで失敗をきちんと報告していたのは、言うタイミングが用意されていたにすぎないということに気づきました。

つまり私は罪に問われなければ告白せず、それ自体を罪だと思わずに忘れ去り、のうのうと暮らしていける人間だったのです。彼がしばらくしてバイトを急にやめたとき、ようやく自分は何か悪いことをしたのではないかと思いました。何かが起こらないと罪悪感に襲われない自分をどうにかしなくては、後々取り返しのつかない恐ろしいことになるのではないか、と不安に思うのですが。